

彩・菜・栽

2026年
8月



園芸研究家 ● 成松次郎
原 図 ● 成松次郎
イラスト ● 小林裕美子

エンドウ マメ科の連作を避け、酸性土を改良する

エンドウには若いさを食べる「サヤエンドウ」、実が大きくなり、みずみずしいさやの「スナップエンドウ」、若く充実した豆を取る「実とりエンドウ」があり、それぞれ目的に応じた品種を使います。発芽適温は18〜20度、生育適温は15〜20度で、冷涼な気候を好みます。

【品種】

サヤエンドウでは「ニムラ白花きぬさや」「ヴィルモランみかど」、「砂糖エンドウ白星」（松永種苗）、「あずみ野30日網菜PMR」（サカタのタネ）など、スナップエンドウでは、「ニムラサラダスナップ」「ヴィルモランみかど」、「スナック753」（サカタのタネ）などがあります。

【畑の準備】

エンドウは同一の畑で連作すると生育障害が出やすくなります（いや地現象）。土壌酸度はpH6.0〜6.5が適しているため、4、5年はマメ科を作っていない畑を選び、酸性土を改良しましょう。

種まき2週間前に畑1平方m当たり苦土石灰100gを全面に施し、土よく混ぜておきます。次に、1週間前に畝幅120cmを取り、幅約30cm、深さ約20

図1-1 畑の準備1

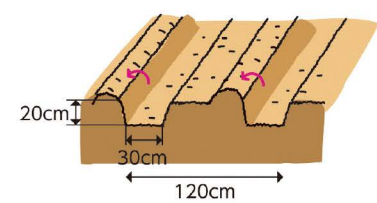


図1-2 畑の準備2

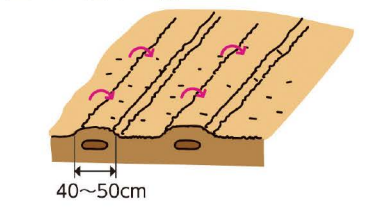


図2 種まき

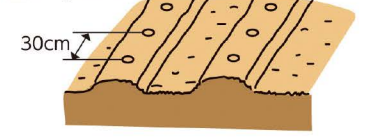


図3 支柱立て・ネット張り

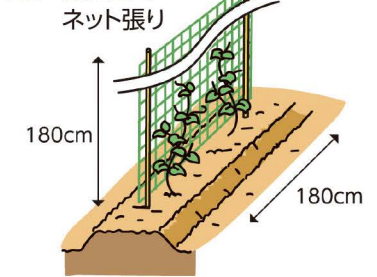
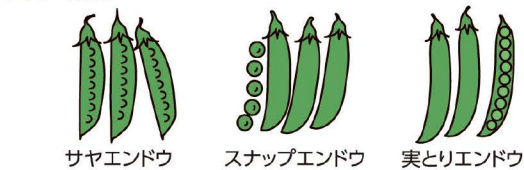


図4 収穫



栽培カレンダー（エンドウ）

気候帯	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	備考
冷涼地												早まきは苗作りをする
中間地												苗作りもできる
暖地												

● 種まき --- 苗作り ▲ 植え付け — 生育 ■ 収穫

をネットに絡ませます（図3）。

【追肥】

春先に生育の勢いが良くなり始めた頃と開花始め頃、畝の両肩に化成肥料を畝1m当たり約10g与えます。スナップエンドウ、実とりエンドウでは収穫期にも同様に追肥しましょう。追肥後は株元に土寄せをします。

【病害虫防除】

さやができる頃からハモグリバエが多発します。登録農薬などを使用基準に従って防除します。うどんこ病も登録農薬で予防します。

【収穫】

適期に合わせて収穫しましょう。サヤエンドウは、子実の肥大が始まる開花後15日前後に収穫します。スナップエンドウは、開花後25日前後に収穫します。さやが鮮緑色で厚みが約1cm、豆が肥大してさやの断面が円形に膨らんだ頃が目安です。実とりエンドウは、さをむいたときに子実が軽く離れる頃に収穫します（図4）。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

みんなのコンテナ菜園

タマネギ

早生で新玉、中晩生で貯蔵もコンテナ1つで10個を収穫

タマネギは栄養豊富で、貯蔵もできることから古代エジプトでも栽培された最も古い作物の1つです。原産地とされる中央アジアは、夏は気温が高く降雨がほとんどないため、地上部を枯らし栄養を蓄えた球根（鱗茎）で越冬します。

一部地域を除く本州では8月下旬〜10月上旬に種まきし、10月下旬〜12月上旬に苗を植えます。翌年の春に一定以上の温度と日長になると球が肥大し始めます。早まきや早植えして太く大きな苗を植えると、とう立ちして球の肥大が悪くなるので、品種ごとの種まきや植え付け適期を守りましょう。

植え付け後は、年明け頃から生育旺盛になる3月まで肥料や水を切らず、肥大前の株の充実を図ります。

葉が倒れる品種の収穫は、極早生で3月下旬、早生で4月下旬、中生・中晩生は5月下旬ごろから行います。

1 種まき

直径12cmのポリ鉢に種まき用の土を入れ、円を描くように間隔を空け20粒ほどの種をまく（写真1）。光が当たると発芽が抑制されてしまうため、5mm程度の厚さで土をかけ、土を押さえる。高温期の種まきなので、温度を抑えて乾きを防ぐため、しっかり水やりし、半日陰の軒下などに置く。5日ほどで出芽する。



2 間引き

種まき後10日ほどして本葉1枚が出てきたら、混んでいる所や生育が悪い苗の間引き（写真2）。このとき、鉢の中心に肥料の1B化



「アイドルももえ」病気に強く、歯切れ良く甘さの強い、年明け3月末まで貯蔵できる中晩生品種

成約3gを指で押し込んでおく（写真3）。

3 植え付け

種まきから50〜60日で、本葉3〜4枚、太さ5〜6mm（写真4）になったら、鉢から苗を取り出し、1B化成約30gと過リン酸石灰約7gを混ぜた土（約14L）を浅型プランター（長さ60cm）に入れ、株間10〜12cm間隔、条間8cmで、株元の白い部分の半分が見える程度の深さで植え付ける（写真5）。



4 追肥

極早生や早生品種は、12月下旬と2月上旬の2回、中生と中晩生品種は、12、2、3月のいずれも中〜下旬の3回、1回当たり化成肥料（NPK各成分8-8-8）約14gをばらまく（写真6）。肥料は軽く土と混ぜ、水やる。



5 収穫

中生・中晩生品種は、全体の5割の株で葉が倒れて1週間ほどした天気の良い日に収穫する（写真7）。



収穫後は雨の当たらない日陰に敷いたシートなどの上に重ならないように置き、10日ほど風乾させる。根と葉を切り落としネットに入れる、あるいは葉を束ねてひもで縛り軒下などに下げて貯蔵する。

極早生・早生は葉が倒れにくいので肥大したのから順次収穫する。貯蔵性は高くないので風乾せず新玉ねぎとして早めに食べる。

※温暖地を基準に記事を作成しています。

写真・文：園芸研究家 淡野一郎
写真 © ICHIRO AWANO

JAアグリゼミ2026

家庭菜園のレベルアップを目指す方 参加してみませんか
4月・6月・8月・翌年2月の開催です

●中津川アグリセンター TEL 0573-62-4141 ●恵那アグリセンター TEL 0573-26-2982
●恵南アグリセンター TEL 0573-56-2171 ●恵那北アグリセンター TEL 0573-72-4113

平日の日中に開催
1回あたり2時間程度

各アグリセンターへ
お問い合わせください